

復興の歩みを進めるいわて三陸の姿を紹介します。

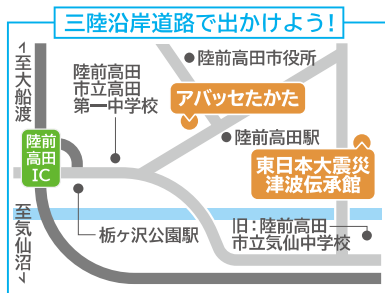
復興キラリ

アバッセたかた（陸前高田市）

「アバッセたかた」に入居している商店の皆さん。左端は、運営を担う高田松原商業開発協同組合の伊東孝（いとうたかし）理事長



1月に行われた「高田まちなか会&アバッセたかた共催 新春もちまき」の様子。
写真提供：高田松原商業開発協同組合



[問] 高田松原商業開発協同組合
0192-53-2111

市民や地域と一緒に、 新たなまちをつくっていく

東日本大震災津波で甚大な被害を受けた陸前高田市は、土地のかさ上げから復興まちづくりが始まりました。まず中核施設をつくり、その周辺に商店を集めて、新たな市街地をつくろう。こうした計画のもと、2017年に、まちの商業をけん引する役割を担う「アバッセたかた」が開業しました。

施設には、再建した地元の商店などが並び、専門店街があるほか、スーパー、ドラッグストアなども入居。施設内の公共スペースは、市民の展覧会やコンサートなどの文化活動に開放され、「コミュニティづくりの場」にもなっています。また、周辺には40店舗以上の店が建ち並び、アバッセたかたと連携して「高田まちなか会」を結成。季節の売り出しや地域イベントを一緒に盛り上げ、新たな賑わいを生み出しています。

「併設する図書館や広場、周囲の店を回遊して楽しむお客様が増えました。それぞれの店や施設が利用者呼び込み合い、連携することで、相乗効果が生まれています」と話すのは、運営を担う高田松原商業開発協同組合の伊東孝理事長。店同士や地域とのつながりを大切にしながら、まちの成長を支えています。

震災の教訓を忘れない！



伝承館を訪れ、震災の事実と教訓を学ぼう！

陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内にある、「東日本大震災津波伝承館」（愛称：いわてTSUNAMIメモリアル）。施設内には、これまでの三陸の津波被害の歴史、東日本大震災津波とその復興の取り組みに関わる映像や写真、実際に被災したものを展示しています。震災の事実や教訓の伝承をはじめ、復興の歩みと支援への感謝を発信し、防災教育の学習拠点としても利用されています。

伝承館に足を運び、自然災害に対する学びを深めてみてはいかがでしょうか。

東日本大震災津波伝承館公式サイト▶

